

## 海外事業展開の 県内企業知って APUでイベント

【別府】大学生らに海外展開ビジネスで成長が見込まれる県内企業を知ってもらう「大分・シヨブ・カジュアル・チャット・スクエア」が15日、別府市の立命館アジア太平洋大(APU)であった。県内の自治体や大学、経済団体などで行く「おおいた地域連携プラットフォームフォーラム」(会長・北野正剛大分大学長)の主催。県内の大学生計約40人(オンライン含む)が参加。各企業の代表が事業内容や、海外展開の状況などに



大分製紙の田北裕之社長(手前)の説明に耳を傾ける大学生ら

ついて説明。質疑応答の時間が長く設けられ、学生らはリラックスした雰囲気の中で対話した。

大分製紙(大分市)の田北裕之社長(63)は「学生との距離感が近く、説明会と

いうよりディスカッションのような感覚で臨めた」。APUアジア太平洋学部3年の柏山知也さん(24)は「同市末広町は「企業の方と双方向的に話せる空気感が良かった。知りたいことを

じっくり聞けた」と話した。同イベントは今年始まり、この日は全4回のうちの3回目。22日にはカーボンニュートラルをテーマに、大分市の大分大で開催する。(横田吉成)